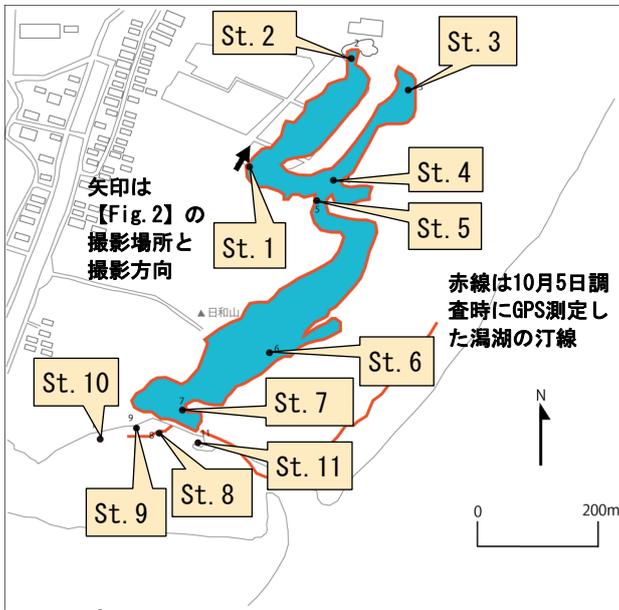


## 蒲生干潟周辺の塩分濃度⑧



【Fig. 1】調査時の潟湖汀線と採水地点



【Fig. 2】潟湖への流入

【Table1】塩分濃度

地点	10月塩分濃度(%)	3月～8月の平均塩分濃度との差
St.1	2.5	+0.4
St.2	1.7	+0.3
St.3	2.4	+0.7
St.4	2.5	+0.3
St.5	2.5	+0.2
St.6	2.6	+0.3
St.7	2.5(水底2.7)	+0.2
St.8	採水不可	*****
St.9	1.6	-0.2
St.10	1.6	-0.3
St.11	1.9(水底2.6)	-0.7

平成28年10月5日【Fig. 1】に示す採水地点St. 1～St. 11から採水，塩分濃度を測定した。St. 8周辺は砂地がなくなっていたため，臨場し採水を行うことができなかった。調査を行った時刻は10:30～11:30で干潮（11:42 潮位77.1cm）に向かう水位の低い時間帯での測定となった。

塩分濃度は各地点で表層水を3回以上採水・測定し，平均値を10月塩分濃度として【Table1】に記載している。今回の測定では各地点とも測定値のバラつきが小さかった。10月塩分濃度を3月～8月の塩分濃度平均と比較すると，潟湖内（St. 1～St. 7）では高く，七北田川河口（St. 8～St. 11）では低い傾向にある。

St. 7で水底（水深50cm）の塩分濃度を測定した結果，表層の2.5%に対して2.7%と若干高かった。

目視できる潟湖に対する水の流出入は，St. 1付近の水門から潟湖への流入【Fig. 2】と，導流堤通水部（3カ所，いずれもSt. 8付近）から七北田川河口の流出があった。St. 1付近の水門から潟湖への流入する水（Fig. 2 A地点）の塩分濃度を測定したところ2.4%と潟湖内とほぼ同じだった。潟湖の水が河口に流出する通水部よりやや下流のSt. 11では，流水中に屈折率の違いによるもや（シュリーレン現象）が見られ，表層の1.9%に対して水底（水深25cm）では2.6%と高い測定値が得られた。

（大津秀穂）